

特

集

## 大豆の多収阻害要因，ダイズ黒根腐病対策技術の開発 農林水産省委託プロジェクト研究「収益力向上のための研究開発（多収阻害要因の診断法及び対策技術の開発）」病害ユニットでダイズ黒根腐病対策技術開発に取り組んだ背景

国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 中央農業研究センター  
病害研究領域

お ち すな  
越 智 直\*

国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 中央農業研究センター  
北陸研究拠点 水田利用研究領域

あかまつ はじめ たかはし まみ  
赤松 創\*\*・高橋 真実

### 特集にあたって

ダイズの作付面積は水田転換畑での転作作物として作付けが奨励されて以降，時期により増減はあるものの，近年は13万～14万ha程度で推移している（図-1）。田畑別に見ると，イネの生産調整においてダイズが転作作物

物に位置付けられたことや，土地改良事業による水田の汎用化が推進されたこと等から，作付面積全体の85%を水田が占めている。しかしダイズは湿害に弱く，水田転換畑で栽培する際には排水対策の徹底が必要となる。

2002年ころから，湿害を回避し，単収や品質の向上，生産安定化に向けた栽培技術である「大豆300A技術」

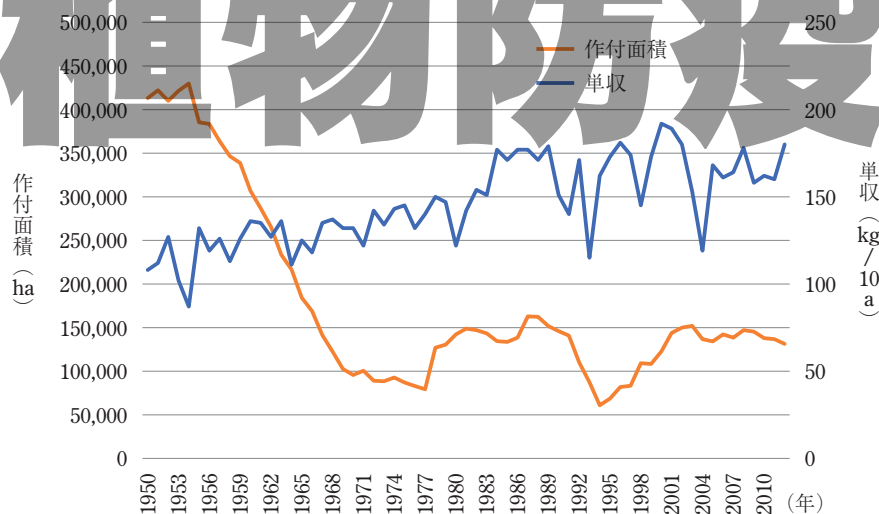


図-1 我が国におけるダイズの作付面積と単収の推移（農林水産省 作物統計調査より作成）

Background of Development of Control Method for Red Crown Rot of Soybean in the Disease Unit of Research Project Entitled “Development of Diagnostic Methods and Countermeasure Techniques for Overcoming High-Yield Inhibitory Factors” offered by Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries of Japan. By Sunao OCHI, Hajime AKAMATSU and Mami TAKAHASHI

（キーワード：ダイズ黒根腐病，ダイズ低収化，対策マニュアル，水田輪作，耕種の防除）

\*現所属：国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構  
農業情報研究センター 農業AI研究推進室

\*\*現所属：国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構  
中央農業研究センター 地域戦略部 事業化推進室